

平成 22 年度 あいち海上の森保全活用事業の取組状況

「あいち海上の森条例」（平成 18 年 4 月 1 日施行）に基づき、海上の森を愛知万博の理念や成果を継承する「愛知万博記念の森」と位置付け、将来にわたり保全活用するとともに、県民参加のもとに森林や里山に関する学習と交流の拠点として、里山保全活動、森林環境教育を始め、情報発信や人材育成などの幅広い取り組みを展開しました。

■主な取組

◎愛知万博記念の森としての保全のための事業

里山保全事業、森林育成事業、森林維持管理事業、自然環境調査事業

◎森林や里山に関する学習と交流のための事業

参加体験事業、自然環境・里山保全等の普及啓発事業、情報発信事業

◎愛知万博継承事業

愛知万博の理念・成果を発展させるため、人と自然の共生国際フォーラムの開催、あいち海上の森大学の開校

■取組の状況

○里山保全や森林の育成、森林の維持管理などに取り組みました。

事業項目		取組状況
里山保全事業	耕地管理	農地（体験学習プログラム「里の教室」で使用）の適切な維持管理のため、委託業務を実施 0. 67 ha
	水路浚渫等整備	農地への用水確保のため、水路へ流入した土砂の浚渫などを実施
森林育成事業	人工林整備	人工林の健全な育成のため、過密林分の間伐等を実施 2. 64 ha
	広葉樹林整備	生物多様性の確保、里山景観の維持等を図るため、広葉樹林の整備を実施 0. 69 ha
	針広混交林整備	人工林を自然性の高い混交林へ誘導するため、伐採を実施 2. 98 ha
森林の維持管理事業	林道・作業道の補修等管理	森林の適切な管理や活動のために利用する林道及び作業道の維持管理工事を実施
	歩道等の整備・補修	森林の適切な管理や活動のために利用する歩道の維持管理工事を実施
境界整備費	境界管理のため、刈り払い等を実施	
遊歩施設整備	遊歩施設の適正な管理を図るため、遊歩道補修等の工事を実施	
事業用地維持費	事業用地の適正な管理を図るため、歩道整備、危険木伐採、草刈、センター内の除草等を実施	

○体験学習の実施、自然環境・里山保全等の普及啓発事業、人材の育成、連携促進などに取り組みました。

事業項目	取組状況				
	行事名等	定員 (延べ)	参加数 (延べ)	参加率	
参加体験事業	体験学習プログラム	森の教室（親子編） 3回	150	104	69
		森の教室(技能向上) 3回1セット	150	42	28
		里の教室 10回1セット	500	907	181
		里山のものづくり 3回	90	73	81
	調査学習会	海上の森の植物	30	22	73
		海上の森の野鳥	30	17	57
		海上の森の夏のキノコ	50	54	108
		海上の森の水生生物	30	40	133
		海上の森の昆虫	30	45	150
		海上の森の秋のキノコ	50	29	58
		海上の森の動物	30	12	40
	海上の森ツアー	海上の森ツアー 4回 ※4回目は、3/27。実績は3回分	200	63	
	里山遊歩施設利用プログラム	森の楽校(遊歩施設) 4回	200	278	139
自然環境 ・里山保全等の普及啓発事業	企業との連携	協定締結企業 6社 I N A X、第一工房、ナゴヤキャッスル、K D D I 豊田自動織機、トーマツ			
	全国の里山保全活動や施設との連携	あいち自然環境団体・施設連絡協議会（あいち自然ネット）の活動			
	学習プログラムの作成・提供	学習教材「自然観察ガイドブック」を有償頒布			



里の教室（田植え）



調査学習会（夏のキノコ）



森の楽校

○海上の森の自然環境を保全するための基礎的な調査と情報整理・発信に取り組みました。

事業項目		取組状況
自然環境調査事業	鳥類・外来生物生息状況調査	里山環境の適切な維持及び多様性の保全のため、鳥類の生息状況及び外来生物の移入状況をモニタリング
	希少動物の生息状況調査	ムササビ及びホトケドジョウが生育する里山環境を維持保全するための基礎とするため、その生息状況を調査
	猛禽類の生息状況調査	里山環境を維持保全するための基礎とするため、オオタカ・ハチクマ等の生息状況を調査
自然環境情報等の収集整理・情報発信		<ul style="list-style-type: none"> ・海上の森の自然環境情報の収集・展示 ・データベースの更新 書籍の購入 ・「ムーアカデミー通信」の発行 4回

○愛知万博の理念を継承発展させるための事業に取り組みました。

事業項目	取組状況			
	内容	日時	場所	参加数
人と自然の共生国際フォーラム	テーマ「生物多様性から人と自然の共生を考える」 ～COP10に向けて森林・里山からの発信～ ・フィールドワーク ・ポスターセッション ・活動事例報告会 ・基調講演 ・パネルディスカッション ・フォーラム宣言 ・交流会	平成22年9月12日・25日フィールドワーク 10月16・17日フォーラム本体 ※人と自然の共生国際フォーラム実行委員会を組織して実施 委員会3回開催 委員長 小川副知事	海上の森及び知多半島現地 愛知県産業労働センター(ウインクあいち) ※講演者等 武内和彦 川井秀一 香坂 玲 宇根 豊 マリ クリスティース	約500人
あいち海上の森大学	森林再生コース 国際交流コース 企業活動コース ※国際ソロプチミスト瀬戸から国際交流コース留学生へ奨学金の支給(上限5万円/人) ※大学運営委員会で内容検討 2回開催	平成22年7月～平成22年12月 7/11 開校式 12/4 閉校式	あいち海上の森センター 研修室・海上の森 学長 マリ クリスティース氏 副学長 稲垣前副知事	修了/受講 森 10/15 国 7/ 7 企 10/15 計 27/37



人と自然の共生国際フォーラム
(基調講演：武内和彦氏)



あいち海上の森大学
(閉校式)

○海上の森センターのCOP10関連の取組

事業項目	取組状況
生物多様性普及啓発事業	海上の森生物多様性セミナーの開催 2回 49名 講師 鉄崎 幹人 氏 海上の森生物多様性 冊子「見てある記」の発行 日本語版・英語版(各 1,000部)、ホームページ搭載
COP10エクスカージョン等受け入れ	COP10エクスカージョンを始めとして10団体を受け入れ、生物多様性などについて紹介
COP10白鳥会場の生物多様性交流フェアへの出展	愛知県ブースにおいて、海上の森の生物多様性や保全、活用の取組についてパネル展示とプレゼンテーション

○センターの適正な運営管理を図るとともに、センターの取組全般にわたる意見を聞く「海上の森運営協議会」を開催しました。

事業項目	取組状況
センターの管理・運営	施設修繕、清掃・警備、施設管理・点検、機器リース、廃棄物処理、企画調整、樹木管理など ○施設利用者数(平成23年2月末現在) あいち海上の森センター 18,917名(通算 112,092名) 有料施設利用件数 工作室 7件 研修室 16件 ○スタンプラリーの実施(H19.10.20から 参加者1,071人)
海上の森運営協議会	2回(10月14日・3月18日)開催 ○平成22年度海上の森保全活用事業の取組 ○平成23年度海上の森保全活用事業の事業計画 ○海上の森保全活用計画の今後の進め方 等

○幼児向けの森林体験活動を推進するため、前年度のムーアカデミーセミナーで養成した指導者と連携した取り組みや森の楽校等によりフィールドの利用促進を図りました。

事業項目	取組状況
幼児森林体験フィールドの利用	オープン時の公開講座(20.3.20)から23年2月末まで 延べ26回 2,473人

